

令和 7 年度（8 月）紀の国森づくり基金運営委員会

日時：令和 7 年 8 月 29 日(金) 13 時 30 分

場所：和歌山県民文化会館 4 階 中会議室

開 会

森林整備課

ただいまから「紀の国森づくり基金運営委員会」を開催する。
設置要綱第 4 第 3 項により、委員数 8 名に対し過半数 6 名が出席で、本委員会が成立したことを報告。

設置要綱第 4 第 2 項により、会議の議長は委員長が当たる。

委員長

設置要綱第 8 第 1 項に基づき、議事録署名人を指名。

審議は、自由な議論を行うため非公開。

議事(1)「令和 6 年度紀の国森づくり基金活用事業実績について」

議事(1)について事務局の説明を求める。

事務局

紀の国森づくり基金令和 6 年度実績を報告。

委員長

各事業について質問あるいはコメント等求める。

委 員

1 点目、令和 6 年の約 2 億 8000 万の予算と比較しながら、6 年度の実績全体を総括したらどうなるのか。

2 点目、6 ページの森林被害調査で、樹高 200 センチ以上あるいは年 3 回以上点検とあるが、この調査結果に基づいて対策はいつやるか。調査結果を対策に、いつ、どう反映するのか。

最後、9 ページ、クマノザクラを龍神村に植栽した件について、たしかクマノザクラは古座川町の辺で見つかったという話だったと思うが、龍神村にもクマノザクラがあるのかどうか。紀伊半島の南端のものを持ってきて問題ないか。

事務局

まず 1 点目の当初予算との比較。

当初予算は全体で 4 億 6669 万 5000 円。それに対して実績で大幅に減少したものは、人工林広葉樹林化で 9428 万 6000 円の減、紀州材公共施設木造木質化モデルで 2784 万 3000 円の減、

続いて森林公的管理で 2633 万 7000 円の減、健全な里山づくりで 1330 万 4000 円の減となっており、1000 万を超え減額している事業はこの 4 メニュー。

委員長

実績がこうやって減っていることに対して、どのように評価されているかという質問。

事務局

評価としては、計画に対して当初予算全て実施する予定だったが、できない場所もあった。引き続いて実施していくが、例えば花粉症対策母樹園はハウスが完成しているので、今後、花粉症対策苗の増産が図られるものとする。

紀州材公共施設木造木質化モデルも、引き続き啓発する。現しの木造も増えてきたので、今後そういったものをますます増やしていく形で PR 活動をしていきたい。

委員長

あと 2 点質問。森林被害調査の調査結果をどのような形で反映するか。

鳥獣害対策課

まず、この造林地の被害調査は、この 2 カ年の調査で樹高 2 メートルに達するまでの期間を重点的に防護すること、また防護柵の点検の回数を 3 回以上することでシカによる食害の低減が大きく図れる。こういった情報を森林整備課と協力して造林事業者に広く伝えたい。

また今後、2 メートルを一つの基準として、徹底的に守ればよいとわかったため、幼木の時期に受けた被害がその後の造林にどう影響していくかをモニタリングしたい。令和 7 年度は、ある程度林齢の若い造林地での被害調査の充実に加え、これまでに被害調査をやってきた造林地の今後の生育の度合いなどをモニタリングしていきたい。

また、生息状況調査——糞塊密度の調査は、データを蓄積してシカの生息密度の推定に利用。その密度を基に、県でシカの頭数管理に関する第二種の特定期間計画を策定している。

地域振興課

クマノザクラは、龍神で自生している。

あと、聞きかじりになるが、この龍神村辺りがクマノザクラの生息の北限と聞いている。

委 員

森林被害はどの程度調査されているのか。まず一つ目は、枯れているのか、皮が食べられているのか、穂だけが食べられているのか。

もう一つは、ネットの下をくぐっているのか、穴を空けて入っているのか、跳び越えているのか。地域によって違うかもしれないが、そういう詳細な調査をしているのか。

鳥獣害対策課

まず、シカの植栽木への食害の種類に関して一応区分して集計している。枯死、頂葉の食害、食害による矮小化、樹皮剥ぎといった形で区分して調査はしている。

柵のシカの侵入は、手元にデータはないが、一般的にネットの地際の甘い部分とか継ぎ目からの潜り込みがシカの習性的には多い。

委 員

ネットに穴が開いていたか、どんなネットを使っていたかを細かく見てもらってほしい。どういう調査を依頼するか、委託する上で条件をつけたほうがいい。その調査の結果を検証して次のノウハウとして教えてほしい。

人工林の広葉樹林化で、生育が安定するのは何年生までの木を見て判定しているのか。

樹種は、所有者の好みで植えさせているのか、県として指導されて植えているのか。

あと、その植えた後を検証しているのか。実際に生育不良だったところに別のものを植え替えて成功しているのか。造林していく上で、林業している人は、広葉樹は何を植えたらよいか、何を植えれば育ちやすいかという検証が分かれば聞きたい。

もう一つ、緑育推進で白浜町がなぜ1校しかないのか。そういう積極的な学校と積極的でない学校はどこで決まってくるのか。

これは小学校か中学校か。小学校なら何年生を対象としているのか。

森林整備課

何年生をもって生育不良とみなすのかは、再造林をするときに振興局の職員と一緒に伐採後に判定をして、広葉樹林化を実施している。

再造林する広葉樹の樹種は、造林する森林組合の職員と相談して行っている。

	<p>その後の検証は、植栽後下刈りなどの保育作業をして、健全に育っているか確認している状況。</p>
事務局	<p>緑育推進事業の実績で、南のほうの校数が少ないのは、もともと県内では南のほうの校数が少ないのと、体験活動ができる森林も南のほうが少ない。</p> <p>白浜町は、小学校だけ。</p> <p>基本的には、周りに森のない子供たちが体験するという趣旨。都会から田舎へ体験しに行くということで和歌山市の学校が多い。</p>
委員	<p>修学旅行などで都会の人が山で間伐作業しているが、地元の子がしていない。趣旨は分かるが、田舎でも山のこと知らない子が増えてきているので、南のほうでも積極的に展開していただきたい。</p>
事務局	<p>了。</p>
委員長	<p>樹種の選定について、大体どのような樹種を植えているのか。</p>
森林整備課	<p>全体 25.5 ヘクタールのうち、ウバメガシが 10.87 ヘクタールで 43%、ヤマザクラが 5.85 ヘクタールで 23%。この 2 つの樹種で大体 3 分の 2。ほか、クヌギ、アラカシ、シラカシといったカシ系統や、イロハモミジなどの樹種が使われている。</p>
委員長	<p>再造林のとき、伐採した後の周りを見て判断するということか。もともと生育不良の森林があるから、森林機能を回復するために造林しないといけないという形での判定はしないということか。切ってから考えるのか。</p>
森林整備課	<p>おおむねそんな格好。</p>
委員長	<p>切らずに生育不良で置かれている森林は手つかずか。</p>
森林整備課	<p>まだ手つかずになっている。そこはこれから。</p>

委員長	1 回切ったら、その次植えるときにということか。
森林整備課	今そういう感じになっている。
委員長	ウバメガシを植えるのは、そこが生育適地だからなのか、それとも将来使えるかもしれないからなのか、どのような経緯で選ばれたのか。
森林整備課	個々の経緯は把握していないが、今ウバメガシの植栽のブームと感じている。ウバメガシの原木が手に入りにくいという報道があり、積極的にウバメガシを選択している。
委 員	<p>竹林対策について、ある一定のエリアを除伐、伐採した跡に植栽しているということか。それか、竹林を強度に間伐してそのすき間に植えていくやり方なのか。</p> <p>「除草剤散布」とあるのは、竹林として残っているところに除草剤をまくという見方でいいのか。</p>
海草振興局	<p>今回の場所は、事業地全体の竹をまず一旦伐採して、事業費の範囲内でエリアを決めて、順次植栽していく。</p> <p>除草剤は、竹枯らしの薬をまいているが、現場で聞いた感じではそんなに植栽木には影響がないと。主に竹、笹類を枯らす薬となっている。</p>
委 員	除草剤は竹の切り口に注入するものではないか。
事務局	恐らくそうだと。全体に除草剤をまくというよりも、竹の地下茎を枯らすのに。
委員長	それでは、議事 1 を終了して、続いて議事 2 「令和 8 年度紀の国森づくり基金活用事業について」事務局の説明を求める。
事務局	資料 2 の「令和 8 年度紀の国森づくり基金活用事業について」説明。
委員長	質問、コメント等を求める。

委 員	<p>予算額が大きいのが花粉症対策の母樹園整備の部分。今、国民が相当数、花粉症で苦しんでいる中で、森林県である和歌山県であるからこそ花粉症対策に重点を置けないのか。要望である。</p> <p>もう一点、最後に育樹祭の話で、大会テーマ「育てて使おう地球に優しい 緑の資源」は、うちの職員が個人的に応募し選ばれたので、うちもこの育樹祭に関心持っている。なので、イベントのときの啓発もうちは協力する。せっかくの機会に森づくり基金事業、また森や木に対するいろんな啓発をこの際しっかりやっていただきたい。</p> <p>ここにある冊子に「1年前のキックオフイベント」とあるが、秋に開催予定というのは、これはもう終わったのか。</p>
農林水産部技監	まだ発表されてない。
委 員	日程が決まれば連絡を。
森林整備課	<p>花粉症対策苗木の母樹園整備について。</p> <p>今、和歌山県では「森林・林業“新”総合戦略」のアクションプランの中で、年間 35 万立方メートルの丸太の生産という生産目標を持っている。</p> <p>この 35 万立方メートルを切り出した跡に再生林する分の花粉症対策苗木の種作りは、令和 5、6、7 年の対策で、ある程度確保できる見込み。</p> <p>ただ資源が充実しているので、その 35 万立方の先の目標に向かっては、またこれから母樹園の整備など考えなければいけない。令和 17 年に、35 万立方に一応 90 万本の生産を考えている。</p>
農林水産部技監	今、県で提供しているスギ・ヒノキの普通の苗木を、令和 17 年には全部花粉症対策の苗木に置き換えるという目標を持って取り組んでいる。
委員長	ほか、いかが。
委 員	森林公的管理については、古座川町を中心に継続的にされてき

ていたが、さっき説明の中で、今回令和 6 年度、境界確定できなかったことが要因で 0 になっていると。古座川町もそうだが、特に紀南は地籍調査がほとんど進んでいないので、公的管理で自然林の大きな面積の山を買おうとしたら、相当前から事前準備しないと今後ますます難しくなってくる。

したがって、その 1 件だけをターゲットにするのではなくて、並行していろいろ調査を進めていかないと安定した購入はできない。予算も倍ぐらい取るとかして、少なくとも水源地を守っていただきたい。

自然環境課

今、委員から指摘の森林公的管理は、令和 6 年度の購入実績はなく、令和 7 年度以降も公有林化する予定はない。

理由は、地籍が完了していない山林の測量等の難しさ、評価額の算出、そういった基礎調査にかかる費用が膨大なものになる。

もう一つは、購入の一つの目安として、環境省の植生自然度を参考にしており、その指標の 10 段階中 9～10、いわゆる天然林の山林を購入目的として定めていたが、そのような山林は基本的に林道もアクセスしていない奥山林で、公有林化せずとも開発による損失の可能性は低い。

そういった場所で大規模な開発が行われる可能性を予見すれば、当該地の保存のために購入を再度検討することもあり得る。

委 員

再開発を防止するために公的管理しているのか。私は少し違うと思うが、水源地等を守るためだと。

自然環境課

自然林の保護を目的としているが、現状は大規模開発による森林の減少が一番大きいので、わざわざ公有林化しなくても現状保護されている状態が確認できているので、今の段階では公有林化を進めることは検討していない。

委 員

それはそもそも大規模開発するような場所のものを買いに行ったわけではない。時代は変わってくるが、そういう趣旨ではなかった。森林公的管理の意味が、今の説明では違うのではないか。

農林水産部技監

委員の意見をこちらのほうで持ってかえって、自然環境課の中で議論してもらう。

委 員

方向性としたら、今、委員が言われた趣旨で発足しているので、和歌山の森林を守るためにその趣旨で進めていただきたい。

委員長

かなり計画的に進めてきたので、まだ計画半ばだったイメージを持っている。もちろん交渉するのはすごく時間がかかることだが、8年度が今期の最後の年なので、しっかり目標を決めてやるべきだと思う。

私からは、方向性として重点項目が3つほど二重丸になっているが、前期のところで、例えば広葉樹林化が進まなかった理由の一つに、地籍調査の問題や所有者との折り合いがつかないことが挙げられていた。やっぱり今期が終わる節目でもあるので、確実な実施に努めていただきたい。

あと、緑育推進の件も、そういう探求学習にどのテーマを選ぶかは学校に任せられている。その中で森林体験を選んでいただけるかは、先生が地域の森林に関心を持っているかによる。

きっかけのないところはこっちからのプッシュがないとなかなかできないので、ぜひ広げていってほしい。

もちろん都会の学校だけでなく、森の多いところのお子さんでも今森で遊ぶことはほとんどない状態にあるので、ぜひそれも広げていただきたい。

ほか、いかがか。よろしいか。

それでは、本日の議題は以上とする。

以上で、委員会を終了する。

森林整備課

本日の審議の内容について、事務局にて議事内容を要約したものをホームページに掲載する。

最後に、冒頭に議事録署名人として指名された委員に署名をお願いする。

これをもって、「令和7年度（8月）紀の国森づくり基金運営委員会」を終了する。

閉 会 午後2時52分